

令和5年度 学力スタンダード指導計画・報告書

教科：（理科）科目：（生物基礎） 対象：（第3学年 A組～F組）

教科・科目の 指導目標	1) 生物や生物現象に興味・関心をもち、自然科学全般に対して探求する能力と態度を育成する。 2) 生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し知識を定着させる。 3) 目的意識をもって実験・観察に取り組み、正しく結果を分析して自分の言葉で具体的に表現する態度を育成する。 4) 生物基礎の学習を通して、主体的に行動する態度やまわりと協働する姿勢を身に付ける。
----------------	---

	前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	<p>学力選抜及び「科学と人間生活（2年次履修）」より学力の状況を分析した。</p> <p>1) 記述式問題の正答率が低く、問題文を読み解く力が身に付いていない。また、中学レベルの学習内容の理解が十分ではない。</p> <p>2) 理科全般において、興味・関心はあるものの、理科に対する苦手意識は強い傾向がある。</p> <p>3) 成績下位層の生徒は、自然科学全般に関する基本的な原理・法則などの知識が定着していない。</p> <p>4) 実験・観察においては、結果を導き考察する能力が低く、科学的な思考力・判断力・表現力が乏しい。一方で、成績上位層の生徒の探求心は高い。</p> <p>5) 理科の4分野の中では、他の分野に比べて、生物に関する内容の理解度は比較的高い。</p>	<p>生物現象の基本的な知識・技能の定着と、科学的な思考力・判断力・表現力の育成を目指し、実験・実習を中心とした学習活動を組織的に推進する。</p> <p>1) 身近な話題を指導内容の導入とし、生物や生物現象に対する関心・意欲を向上させる。</p> <p>2) 専門的な内容へと指導内容を深め、基本的な概念や原理・法則を理解させる。</p> <p>3) ルーブリック等で目標を明確にしながら、観察・実験・実習の結果を正しく記録し分析させる。</p> <p>4) 実験結果を正しく理論的に考察し、共同実験者と意見交換しながら結論を導き、実験報告書（レポート）を作成させる。</p> <p>5) 発表の機会を通して他者と自分の考えを共有し、次の学習へ結び付ける。</p>	<p>理科全体で指導内容を協議しながら、使用する教材、実習内容を共有し、改善・充実化を図る。また、生徒が主体的・対話的に学ぶ環境を整える。</p> <p>1) 身の回りの生物・生物現象を指導に活用し、自然科学全般への興味・関心を深める。</p> <p>2) 教科書を基本とした教材を作成し、基本としながら、基礎的事項を正しく理解させる。</p> <p>3) 学習のまとめと問題演習を行い、生物基礎の学習を振り返り定着させる。</p> <p>4) 実習活動は週1回程度の割合で実施し、実験報告書の作成を通じて思考力を養う。また、オンラインを活用した発表活動に結び付ける。</p> <p>5) グループワークを通して、適切に自己表現する力を養う。自然科学全般への興味を深め、自ら学ぶ姿勢を育成する。</p> <p>6) TeamsやClassiの他、動画配信、オンライン授業等を活用し、指導内容を充実させる。</p>

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			